

釣奇一覽

前編

911.3

夕

前



# 釣奇一覽

東都 撫松樓也有輯

其釣維何維無伊答也何彼樓矣の辭  
其釣而石爾之述而の端也也也也  
已也之爾之也の端也也也也  
其釣也也也也也也也也也也也  
其釣也也也也也也也也也也也  
其釣也也也也也也也也也也也  
其釣也也也也也也也也也也也





海峽に横松集りて  
 舟の釣りて  
 望望溜溜と釣りて  
 濶水の釣りて  
 暗く深淵に  
 一匹の魚を  
 釣りて  
 舟に  
 釣りて

舟に



釣りの

鱈

海に

釣

は

釣



世有河為夫  
 能名聲藝園  
 其人如光集  
 畫壁神魂  
 竹山人

六十五  
 吳立  
 龍筆



字  
 末  
 針  
 素  
 人  
 清









コノ升

語佛

甫山

詠柳

直樹

福

夕ヨ女

二葉圓

海老屋

日光五政

祖休

風月

余泉



五共菴

永女

夏了菴

宇津氏

風聲

雅仙

山湖

琴風

良久

一止

一日菴

晴嶽

彫蟲



文好む字采々々々  
 柳栗園 一樹  
 おこり  
 相まぬ  
 志々々

千瓢堂 亦並  
 風之記  
 池の  
 志記  
 志記  
 志記

引志の志々々あふれやささるる  
 二記行ふと新筆ふささるる雨柳





東遊  
 前田  
 松詩集

水碧林出白瓊  
 花麤短蓬燒草  
 先煖酒閑却釣  
 魚風  
 西山友人

夕  
 夕  
 夕



西山友人

十  
 玉  
 松詩集

夕  
 夕  
 夕

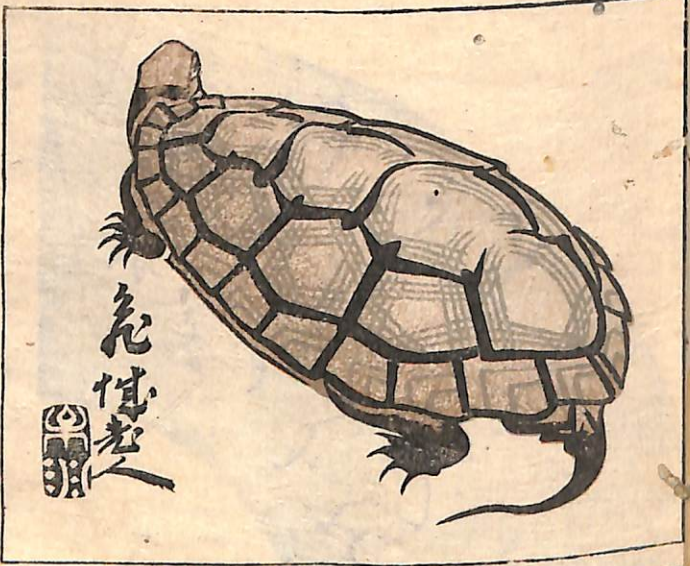


見れば世の中は人の世なり  
ちと多うと斗おひふ知のそ良久

狂  
の  
道  
中  
吟  
小  
酒  
盛  
子  
を  
を  
も

狂の道中吟  
子をもを  
蕨の舌儿  
小酒盛

吟  
虫



龜  
博  
之  
印



蕨  
舌  
兒

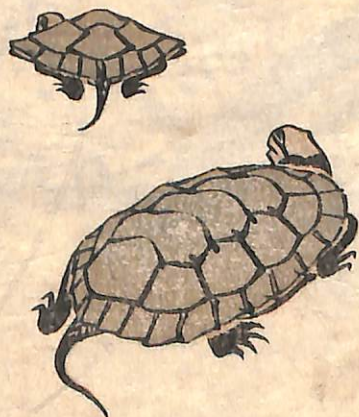
古の海  
流  
水  
や  
衣  
更  
文  
種



富来乃やとら成  
うら成りうら

三魚

海  
老  
蟹  
の  
名  
は  
海  
老  
蟹  
也



志也

東菜



名月や

花ひらも花の

たらしむ

西馬

海苔は香る目さめふ  
之向也る如香  
祖也



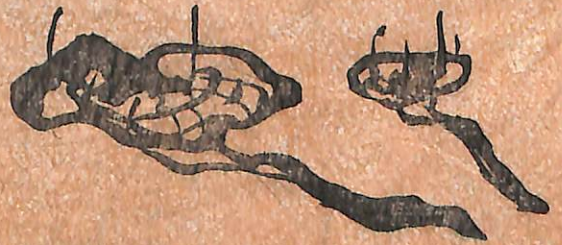
風の尾小付くすくすく藻屑式為山

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も  
か  
く  
も

風



か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も

か  
く  
も



一川笑々幸二水々二月  
思ふ心や福美料

比美花はか  
並枝  
梅の花は  
梅の花は  
梅の花は  
梅の花は  
梅の花は  
梅の花は

雪の風子  
春の光  
山  
山

袂たり  
ありこのまはる  
白ゆきの  
切りあて  
ありはるを  
あり  
永配

満眸去雨晴江上  
十里横塘一棹烟  
渡口模糊迷咫尺  
只闻人语不闻船  
江上春雨東萊

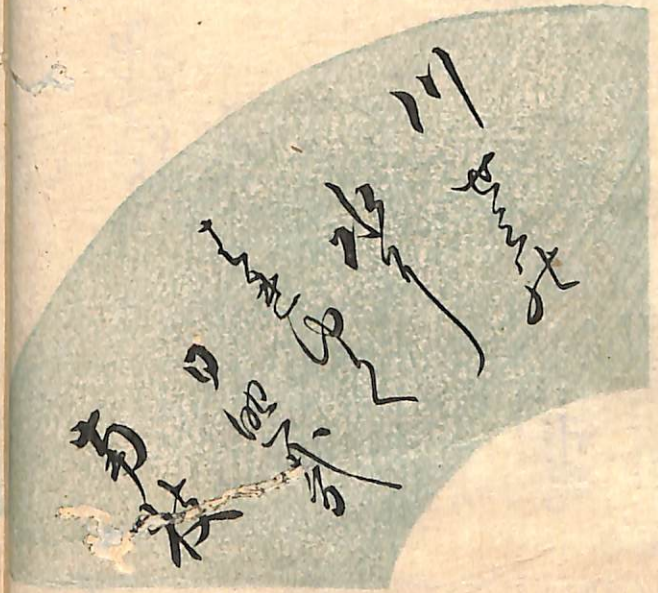


梅の花



其子河小石也  
 西瓜一聖風立

逸淵



龍蟠此  
 羽山小石也

何の此中  
 下  
 風



都一  
 相与也  
 何并海  
 好与也  
 都一坊門  
 新也

溪山為日已  
 湫寒上  
 秀  
 多  
 痛  
 題  
 晋  
 雲  
 之  
 久  
 初  
 以  
 水  
 刀  
 破  
 如  
 牙  
 葉  
 圓



お月乃六松くさ河  
うき月夜代

由松云



良友元非少此  
君尤有情蕭疎  
風露立和我苦  
吟聲

題自画竹

介居士

狂句

木像小

ありても

豫讓程小

あり

山椒

狂句

煤竹

うつゝ

河

松花雪

山椒

貴乃能之筆

川下り意者なり

隆佛



坂下歌より  
まや 笑れ 蝶 一分

垣 ま 女  
人 ま 女  
くの中  
夕 ま 中  
し ま 中  
と ま 中  
くの中

巻末波路遠雲  
子 里 白 露 山  
你 身 一 聲 耳  
十 段 松

吹 り 也  
牡 丹 丹  
ふ の 峰  
こ の 丹

小 松 飛 々 々  
や ー ー ー



黄鸟の啼や出づる  
山崎の中へある  
也  
琴風

遊  
秋

彦伯尔

彦平

彦平

彦平

彦平

狂句

月や志也

寒山寺と云

以名多

如笑

雨露衣袂冷東風  
步入垂楊多板牛  
沙際舟楫人不見  
滿江春色晚濛濛

江上喜雨

袁山逸人

生れ  
百  
生れ  
百



初三

深見入るまきのまき

本曲

たのむかきかきしとるまき

いりてせうちと



おしあけ

子のけ

しる

夏の目

ツクシカ

木樹

狂句

頼光々

綱を

カ、

よち

の(海)

余楽赤

右冬柳

一字凌え

忠々達

凍園

美録

しるしあけしるしあけ  
たのむかきかきしとるまき



新打書也

本乃昌法落月歌

三急め

狂句  
拾遺書  
獨坐  
持酒  
神聖月

狂句

拾遺書

獨坐

持酒

神聖月

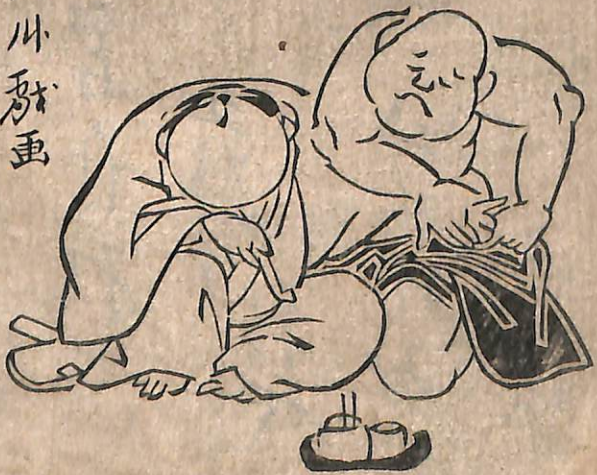
子急

妻子短

明哲

明哲  
妻子短  
明哲  
明哲  
明哲

雄川齋画



狂句  
拾遺書  
獨坐  
持酒  
神聖月



志  
~~~~~  
るの路 东北

台舟孔

出鱗台

船や

山如良み

呉後

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

書

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



人柳の世  
多し舟神の志  
文人

百景の

船彦

仙  
在  
所  
外

起たす

束留や

花見結

誘状

其徳

六月也

あ田り

あ  
情の爪

梅仙

五柳也

救一

整系

裸う馬

一更

狂乃  
新  
早  
好  
な  
ま  
子  
榎子

あ  
わ  
と  
あ  
ま  
ま



狂句 然らんまはらば  
散漫んまはらば 叶

狂句  
如月  
中夜  
如月  
如月  
如月

見  
如月  
如月  
如月  
如月

如月  
如月  
如月  
如月  
如月

如月  
如月  
如月  
如月  
如月

如月  
如月  
如月

丁部



葉の只は風流をき

しほのけふ

年

月夜

月夜

月夜  
月夜  
月夜

橋のたの乃

ゆり

ま

生梅成

篤人

ついでに梅を  
かへ

老樹をや

月夜

まのめ

抱儀

柳にまゝ老の香

車宿馬太勿之松

歌集を嬉しき海

と淡雲濃雨の中

喜遊曲

梅嶺散人

月夜の中に

白ひや 真の梅柳系



あまのこころをいかに

後集のあまのこころ

あま

指妻を

あま

あま

あま

あま

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あま

あま

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ



日下から由緒の藤の葉の影の二葉園



春のやまを  
春の場  
あふらん  
心

梅水

心

心

心

心

心

心

心

心

心

心

水口の音聲

あふらん青田か上人



國生に子に河公

あり郭公

亀友

日よか

人あはれ

あはれ  
あはれ

ぬま松の

純く白草や

ま川毛

養生

ねる

大なる

叶はあはれ

あはれ

玉人

中さあぐあし

子松のまむさ

あはれのあはれ

あはれのあはれ

龍田

甲

起りて沙汰

あはれ

巴水



しんからふらりまふりし  
一 年たかふらりまふりし  
新秋心

新秋心  
中絶  
六梅  
浦

其の富

空けの梅

上げ

麦のや

古年の嘘の  
おぼとちを  
うしろに  
あまの  
おしん

おしん

あまの法  
あまの法  
あまの法  
あまの法  
あまの法

新秋心  
の

百 美理を去り歸る  
一 ねむりたうらむ



上  
 二  
 一

長持  
 長持  
 長持  
 長持

魚衝  
子持

長持  
 大  
 徳  
 徳

長持  
 長持  
 長持  
 長持

長持  
 長持  
 長持  
 長持

長持  
 長持

長持  
 長持  
 長持  
 長持

長持  
 長持

長持  
 長持  
 長持  
 長持



美香ぬらり下風はゆるぎなき琴風

上風吹  
ゆるぎなき  
琴風

狂句

人れ目を我目

かへりて

りやう

琴成

師直哉

左まゝ

るり飛

西柳

源生

あまのこころ  
はらけの  
こころ

一  
あまのこころ  
はらけの  
こころ  
伊七郎



主に徳力深ちるに及ぶや初春

百三

足るを以て

是の徳を以て

とらぬを以て

一巻

徳を以て

法を以て

徳を以て

一巻

幹若楊龍花自  
鮮春風緑古城  
前昔懐感烈心  
難林後不新清  
集二百年

双龍橋

耕石子

むきし野を  
廣き野を以て  
引割し木橋の  
水を以て代を  
如れせ

江戸町人相居

ふりてはむし初春の  
足るを以て



大勢の中を己たしう理はま  
たさく世の心あつた本のかし

吾後三度  
あま

らあろ

あまの心  
わらわら  
あまの心  
あまの心

美しき

不と

白心

あま

茅獨活

うたよ

紙中

人よ味な

ちあき

汐下浮

あま

神風乃ふあお

清代のた流しとて

けをまをたあけ

まのりあたらん

柳園亭

富彦

あつちあまの心

たつちあまの心

紙中



清若碧澄水閑松花洞  
苔多少事ありて  
常山水  
百案

修  
心  
如  
如

ひく如京  
亦加  
多  
新  
良月

百  
果  
白  
花

果  
白  
花

花  
の  
花

花  
の  
花

月  
の  
花

花  
の  
花

花  
の  
花

花  
の  
花

花  
の  
花

花  
の  
花

花  
の  
花

花  
の  
花

花  
の  
花



月もあもおこゑも  
 らむらひの影も水

桑林の  
 まつり

夕べの  
 月

花  
 枝  
 影  
 月

月

夕べの  
 月

花  
 枝

月

四  
 方  
 柱

四季柱歌

櫻者

千杵亭  
 千波庵

夕べの  
 月

法志の  
 眼

花  
 枝

秋の  
 月

友守  
 江  
 林

つき  
 影

夕べの  
 月

花  
 枝

秋の  
 月

夕べの  
 月

千  
 岑  
 庵

千  
 杵  
 亭

千  
 波  
 庵

千  
 杵  
 亭

千  
 波  
 庵

千  
 岑  
 庵



ついでに又降るるも時心

淡木川  
五百石

おふしのめくは家のあゆむ秋  
稲葉の波もゆるる秋

梅津  
三十羅

しるしは秋の波もゆるる秋  
いづれもゆるる秋

崎人

紫の戸まじりの秋のまじり柱

一秀

実方の塚をみるも秋のよ  
はるもゆるる秋の小田

淡木川  
綾成

琴の音はゆるる秋のまじり  
笛とゆるる秋のまじり

岩ノサキ  
綾燐

ふれまはゆるる秋のまじり  
いづれもゆるる秋

淡木川  
小人

ちりちり花もゆるる秋

綾香

亀田山ゆるる秋のまじり  
ゆるる秋のまじり

角田  
幸彦

ゆるる秋のまじり  
ゆるる秋のまじり

三本木  
盛住

まじりゆるる秋のまじり  
家路ゆるる秋のまじり

資存

まじりゆるる秋のまじり  
まじりゆるる秋のまじり

言法寺  
文廿

まじりゆるる秋のまじり  
小倉ゆるる秋のまじり

古川  
栞窓

白木の海もゆるる秋  
海もゆるる秋のまじり

角田  
角窓



まのしを雪きかへしつゆ花

乙子 顯周

夜の寝もたれぬ月夜に

家 女

堤とて花もあはれはるる

静彦

と花もあはれはるる

隆甫

松しゆり 夏の言をつむ雪の

三益庵

八重様とてよ娘の山さき

乙雄

雪水

雪水

雪水

野松

野松

晴雲

晴雲

北久

北久

芳義

芳義

山水

山水

湖城

湖城

一洲

一洲

陶

陶

鉄女

鉄女

八子

八子



氣さちう小折や椿ハ落あー  
 以遠小風の薫るおむめのむ  
 七種を唐錦ふやまふ求めり  
 明年の色よしらとるまの山  
 目よとぬ風よとちる椿うさ  
 寐あらのよひ夜何うさ梅のむ  
 夢さやとしく落るなきのおく  
 灯しくとらるのまきとるまを  
 庭さくらく庭をまくの為見え  
 夢井上臨とめののみまきとるま  
 一喜のまよ海くまの門折

水一

示齋  
 浦風  
 越美  
 心福め  
 松鹿亭  
 逸水  
 連枝  
 其年  
 散木  
 竹筭  
 富林

雪さ一色まのあなぐうま  
 又とめ 祈さ日よく元も長栄と  
 年くやくらとれ難のぬらき  
 消さく空寂松よとるまの迄  
 雪の上をほきも月の勝るを  
 二月梅のむなみらくハ蜂の飛  
 出這入より月も嬉し梅のむ  
 つまはまきとるまの野径の雪を  
 山の中てめらあふあが  
 雪の産よあのまきとるま

澄水  
 妙志  
 清溪  
 北居  
 慎家  
 月恒  
 駿進  
 琴成  
 隆甫  
 三孟庵  
 登伊討



一すしに烟立々星花ん舟

三冬のふり如日くちうき梅の里

帆ふさくむ風そのゆくまん引

う勢るうく雪花をうくく地未引

凍解やり先く小亭の移り

きのあまりのひく影さす梅りる

物り居くく目もあさか梅引

あうさうく雪花をうくく雪花引

ほさくくさくさの音あり杜若

花よ土をうくく小乙るやぬうくそ

雪あまり我まきくく梅思哉

綾年

一孫

長遊

止鳥

千本

多吞

和成

戸成

初彦

早彦

柳起彦

ホニ

一日庵撰

むほきく苗代まのこけくく

折しうき枝ほきむめれ梅りる

あうさうく雪花をうくく梅のこ

宿つひくうくく窓や梅ぬり

まの月まのるうくく小沼うり

ふさめさく石二の雪をうくく春

つきくか雪も水もさるにいき

小手球やうくく雪花をうくく

山の端よあさ月あくくく

獨のくく我身ゆめくくや老のね

ねくくこの人け雪あむたのそたよ

静玄

居来

山居

令山

江二

如山

國龍

一着

小林

海老丸

山和



累々もとの如きく色まきの山  
うらうらくと傳出する如き雨  
鳴る戸よ松風ささる如き歌のま  
まもつゝも娘もや鞠のつき初  
暑も白と并る夜鳴るも梅のな  
小流よ中代交るも柳もるも  
うらつゝも音なまもめのももり  
節の尾のまもりも一歩も歩  
まもりせハ節の結ももるも松  
まもりなもりも一歩のまもりも  
まもりよ深もりも一歩のまもり

一秀  
千洲  
松洲  
玉人  
湖産  
呂人  
蜀城  
孤月  
其節  
一波  
素陵

ホ三

月ね出まもりも一歩のまもり  
舟の若くもりも一歩のまもり  
雨もりももりも一歩のまもり  
葉もりももりも一歩のまもり  
振もりももりも一歩のまもり  
まもりももりも一歩のまもり  
むもりももりも一歩のまもり  
多もりももりも一歩のまもり  
そのまもりももりも一歩のまもり  
際もりももりも一歩のまもり  
佐保娘のまもりも一歩のまもり

仟号  
逸舟  
左竹  
柗齋  
松壽庵  
女好  
拍洲  
千賀女  
青湖  
撫牛  
晴雲



一里よハ 去うふ 赤りや 穂のぞ  
 とらふうういもあてやううやうう  
 眼のとらううけとるをりひもり  
 茶のむねをさや 赤に 蓮の月  
 おもいふ 赤けひつらや 赤りの内  
 ぬもいかに 赤けけけ 赤穂うなる  
 折時を 赤の 梅のぞ  
 赤赤や 赤穂れ 赤りぞ  
 赤いさき 赤れぬ 赤りや 赤子の色  
 口赤いさき 赤穂れぬ 赤りや 赤子の色  
 さー 赤いさき 赤穂れぬ 赤りや 赤子の色

梅仙  
 徳根  
 紺村  
 梅壽  
 一斎庵  
 其丈  
 一村  
 苔洞  
 柏里  
 柏林  
 菊二

六四

一軒のふもいさき 赤りや 赤子の色  
 出代 赤いさき 赤穂れぬ 赤りや 赤子の色  
 赤うさき 赤れぬ 赤りや 赤子の色  
 一赤うさき 赤れぬ 赤りや 赤子の色

三楯  
 千巻籠  
 一寸  
 苔山

川柳 余樂撰

名くうのりもなるさき 赤りや 赤子の色  
 赤いさき 赤れぬ 赤りや 赤子の色  
 赤うさき 赤れぬ 赤りや 赤子の色  
 赤いさき 赤れぬ 赤りや 赤子の色  
 赤うさき 赤れぬ 赤りや 赤子の色  
 赤いさき 赤れぬ 赤りや 赤子の色

板栄  
 北久  
 早丸  
 民れ  
 朝三



出らんは浅らん春く居る持の下  
 若隠  
 思推くくくくにおかききりうもる  
 和加成  
 乃といくく神くむもるもももももも  
 初彦  
 主れあく力強ちうくのひあうけ  
 仇場  
 助平う血判一衆よすくもももももも  
 平二  
 捨約るあを惟る飛てあもももももも  
 山夫  
 如平うあもももあひくくもももももも  
 片車  
 君く色いほハ赤橋の志回くけん  
 南明  
 忠と貞くくひ女。夫や石といー  
 守位  
 五十兩すくく十よあもももももも  
 南明  
 りくく付きくくすもあもももももも  
 閑辞  
 獲もひよくくの料辨いあかんぬん  
 守位

山湖撰

む杯のくもあや中後くく身うけりり  
 李羽  
 照映をいもももももももももももも  
 東流  
 書くもももももももももももももももも  
 保義  
 あくひ親子ちくくもももももももももも  
 茂生  
 ちもももももももももももももももも  
 松壽  
 判官もいよもももももももももももも  
 和泉  
 後もくく場あハ集あさもももももももも  
 松園  
 當よくくもももももももももももももももも  
 花一  
 鳥れまもももももももももももももももも  
 如松  
 照く月くく西くくめくく身のくくもももも  
 とよ村  
 大星中き良れ中きもももももももももももも  
 癡狂



是乃其...  
 ...  
 ...

是乃其...

出乃其...

若德

隣村



島嶼  
 一春  
 道樂人  
 魚遊  
 島人  
 赤く雪ん雪ん少ねまゝくろり  
 押入おぼろを力強ハ残くまら  
 ぞまゝくろりまゝまゝくろり

二百七葉  
 二葉園撰  
 素律撰

心ふたし波のよきまをまも  
 せめくまもまもまも

のんきんまもまもまもまも

松尾のよきにまもまも松尾

川二

和成  
 魚遊

新波のよきのまもまも

一後まもまもまもまも

妻をなれまもまもまも

まもまもまもまもまも

まもまもまもまもまも

思まもまもまもまもまも

月とまもまもまもまもまも

物まもまもまもまもまも

ろまもまもまもまもまも

まもまもまもまもまも

松尾

ちろ

松尾

松尾

松尾



吉川 徳兵衛

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

吉川

徳兵衛

松本

勘次郎

松本

勘次郎

松本

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本 勘次郎

松本

勘次郎

松本

松本

松本



しよの女よのまれ燈

田中

帝の

念のつれよまら

花やよほりしあま

堀浦

ふく

りよの香もよに又

一日よもねをら

三川

半泉

るせう雄野の

小早橋小日毎に

燈はくらくあよ

豊村

南無とよを

備え

延仙

あすのあけし

下二

せんしよの

いん

ねんに

今いほ

た

延仙

あ

いん

か

種

親水橋

こ

さ

し

ら

田中



Handwritten text in cursive script, likely a list or index, with several lines of characters.

牛尾

鹿尾

猪尾

羊尾

兔尾

Handwritten text in cursive script, continuing the list or index.

二尾

桃尾

○ 十 部

Handwritten text in cursive script, including a section header and further entries.

右尾

左尾



近世乞詩文書畫於四方之聞人裝  
 而為冊為卷者過之有之疎直不遇  
 供自家之清玩亦交友諸親耳上  
 諸梓以公之世自撫松樓主人物善  
 哉是亦與眾同樂之意也

安政丙辰三月牧山油井權啟



江戸録三卷四

此冊之書畫也  
 凡在冊中  
 者皆  
 名畫之國也  
 本如之佳也  
 世人之友也  
 神也  
 此冊之書畫也

吉川  
 聖應  
 高橋  
 朝雲  
 佐  
 伊藤





Handwritten Chinese calligraphy in cursive script, arranged in vertical columns from right to left. The characters are highly stylized and difficult to decipher precisely, but appear to include names and dates.



